査読回答書　(査読者: 3)

この度は、私どもの投稿論文を査読いただき、

また貴重なご意見をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

ご指摘の各点につきまして、慎重に検討し、下記の通り修正させていただくことといたしました。

なお、いただきました質疑１．につきましては、いただきました質疑の論点を整理して回答させていただくことを目的として、質疑1-1, 1-2, 1-3のそれぞれに分けて回答させていただきました。

お忙しいところ恐縮ではございますが、再査読のほど、よろしくお願いいたします。

I. 再査読の条件に対する回答および修正内容

１-1．

今日の様々なモニタリング状況に配慮し、加速度データから建物の振動性状、損傷状況を評価する手法として重要と思います。また、タイトルやキーワードに"ひずみ計測"が含まれています。本論文の主題は、計測とモニタリングに関する基礎的知見や振動性状を対象としたものと思いますが、実用化を見据えた場合、加速度とひずみのいずれの利用が優先されるのでしょうか？

回答：

→　ひずみのみを使うというわけではなく、加速度により変位を算出して使っていますので、ひずみのみを使えばよい、とは考えていません。